

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 教授

氏名 寺田晃士

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

専門科目として遺伝子および染色体についての講義および実習、それらの基礎となる科目として基礎遺伝学や生物有機化学の講義を担当する。臨床検査技師国家試験において、遺伝子検査関連の問題に対応できる知識を習得させることが責任であると考えている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	74

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学生には、自分がどのような人生を送りたいかを考えてそうなるために時間を使う、そのような人間になって欲しい。臨床検査技術学科の学生ならば国家試験に合格することが自己の希望であることを忘れずに努力して欲しい。自分のために時間を有効に使うことの重要性に気づかせ、実際に努力させることが自身の責務であると考えている。一方、その重要性に対する学生の気付きを待つには余りに時間が足りないことも事実である。まずは学生の後悔にならないよう多少無理にでも学修させて国家試験に合格させ、いつか、自分のために努力するような人生に目覚めてくれることを期待する。そうすることも大切であると考えている。臨床検査技術学科に入学した学生には、国家試験を目標として4年間を過ごすのだという意識・覚悟をもって欲しい。そうあるべきだと伝えたい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学生の意識に影響を与え学修を自主的に行うような動機をもたせることが理想である。臨床検査技術学科の場合には国家試験が大きな学修動機となるはずであるが、自由度の高い大学生活では、日常生活において学修の優先順位が低下することが懸念される。そのような理由から、低学年時から常に国家試験を意識させ、また4年生がいかに苦労を重ねているかを理解させ、学生の学修意欲の向上、危機感の喚起に努めることが大切である。一方で現実には、そのような試みがうまくいかない場合にどう対応するかが重要となる。月並みな対応ではあるが、繰り返し問題演習を課し、解説を行い、また同様な演習を行う。そのようなサイクルを重ね少し前の自分よりも知識が増えていることを継続的に実感させる、いわゆる形成的評価と言われる方法を採用している。すなわち、複数回の問題演習の後知識の蓄積が期待される頃に小テストを行うことで自己の学修成果を実感させ、学修意欲の向上を期待する。他方、講義中にノートを取らず聞いているだけで勉強したことになると考える傾向が認められるが、それを改めさせる。学生には、聴きながらノートをとることにより記憶の定着度が高まり講義後の復習もより効果的なものとなることを強調したい。それと同時に、講義スライドのある部分を強制的に書き取らせ、その部分を次回の小テストの範囲にするなどして、自ら書かせて覚えさせることなども行いたいと考えている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

実習では、予習内容を尋ねたり、実験結果について考察する時間を与え、お互いに意見を出し合うような時間を設ける。

(2) ICTの教育活用

有

パワーポイントを使った講義および、学内webサイトへの講義資料のアップロード

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義では、なるべく視覚的に理解および記憶できるような、絵を使って説明できる資料を作成し用いている。特に、教科書の図で複雑で理解しにくいと思われる部分に関して、教科書の図を複数に分割して書き直し、分割した図を順番に、時間をかけて解説することを心がけた。

(2) 学生の理解度の把握

B

国家試験対策の講義において過去に出題された問題および類似問題の演習を課して解答させている。その時に順番として、まず問題を見せ、答えがすぐに分かるか挙手させて確認した。その後解説し、解説後に同様な確認を行なった。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

国家試験対策の講義において担当分野における基本的事項をまとめたリストを講義の配布資料としてアップロードし、繰り返し目を通すよう呼びかけた。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

講義の冒頭で教室の前方で受講するよう呼びかけ、また、質問にはオープンに対応した。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義中に内容理解について学生に質問し、説明が足りないと判断した場合には説明を繰り返した。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

国家試験過去問題の傾向に沿った演習問題を作成し、総合臨床検査学演習の講義で解説を行った。また、担当分野における基本的事項を国家試験という観点からまとめたリストを、上記講義の配布資料としてアップロードし、繰り返し目を通すよう呼びかけた。

5. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

パワーポイントのアニメーションもなるべく使い、講義時間中に飽きられないような資料にすること。基本的な語句など暗記が必要なものはリストを作成し、問題演習や小テストなどでそれら基本事項の定着度を測ること。以上のようなことを考えている。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

成果の確認、学生や第三者からのフィードバック等は得られていない。

6. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

FD研修には今後積極的に参加し、都合により参加できなかった場合にも録画の視聴などで研鑽を積みたい。

7. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

短期）まずは、学生の基礎学力レベルや学修意欲の程度についての把握に努める。教育方法に示したような方法が効果を上げるかどうか見極め、継続するか方向転換を行うか、方向転換とまでいかなくとも追加や微調整など行うか検討する。そのようにしながら、学生に合う教育方針を探っていきたい。

長期）学生の学力向上を実現できる教育方針を見出しつつ、より一層の改良に取り組む。

8. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

授業に関するもの：パワーポイント資料

教育改善に関するもの：シラバス